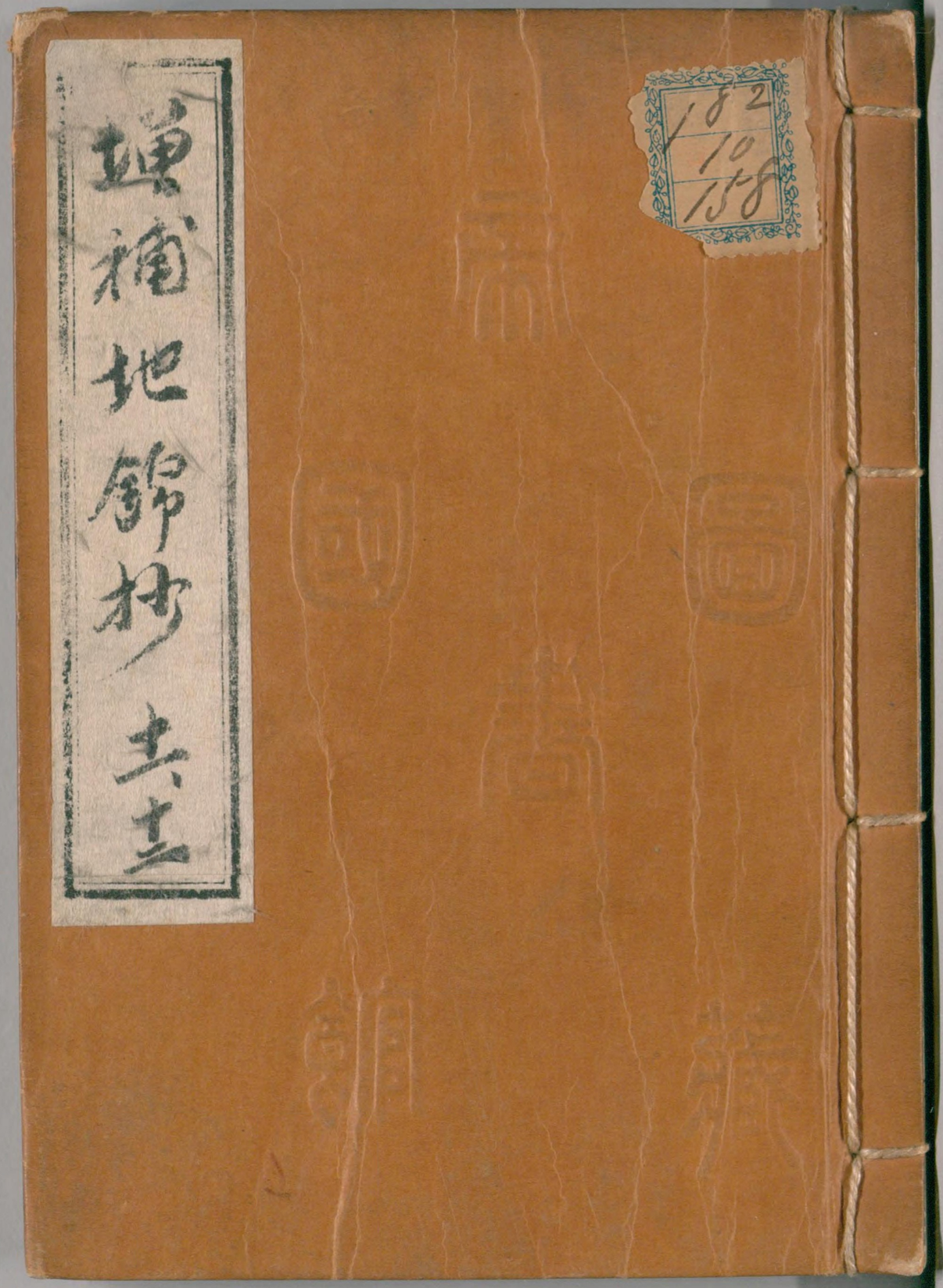
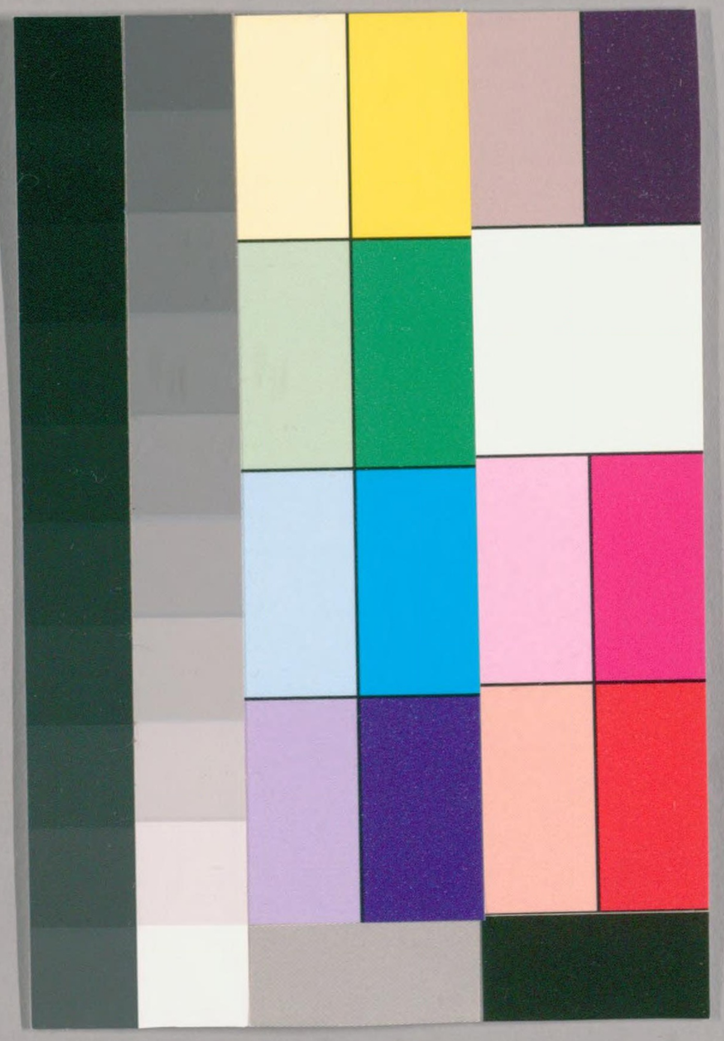


182
10
158



国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

182
20
168

廣益地錦抄　十一

巻之十一

後奇仙紀葉（ノチデカセンセンキ）

三十六種

葉形繪圖

東京圖書館

和書門　類　三〇　函　六　架　ニミル　號　二の冊

十八

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

後出歌仙ども集

花水哥仙ども三十六種花もそ
もおもおもしろく初春の
ありて久み紅ありもうも
うすき紅ありもうも
ふわり軽き夏のころ
まきかうの実くれ乃
みくまでもまいまい人今ふ
実生枝かうして今ゆく三十
と号しておお哥仙をみんら
ぶ

宝玲文庫

葉形志ほしくて葉数志げくつき
て秋みがゞめありいみへより
ふしくハしかに仙く玄乃実
実みく枝朱もれべ実名も毛遥
とゞくハしゆうり春乃名久しも
ありおをうりしく実ありし枯
のお菜みをぶまくう

ちよまぐいの乃ん
めれねをれ枯の
みうの菜

もみぢかさ

紅葉よく染めおほくして
名乃畑の雪のやうにふりかゝれば
もみぢかさとぞいふの出案ありけり

うもれ木

ありて松乃木葉歌書かゝれもいそく
松葉ーもみぢ乃みゝ

山姫乃笑ふ花かくまそのおん
もみぢかさ乃紅葉ふへほろ

後成

関守（せきもり）

紫野小むらさきのゝ
うすき後ぐさのかげ
もくふものかげありすゝきの花をのやう
もゝとゝ云ふすゝきの出案ありて関守といふ
おの案さもくありて
関もる木かげおほくてあふ坂山
とゞまれこゝろ

おふ坂乃せきもる神ぞ隆房
もる秋乃紅葉のうしろ
神ぞりかさもゝ

海とし紫

紫根切也 ゆかりて云紫
ゆかりの事 ゆかりて知也 ゆかりて
ゆかりの事 ゆかりて知也 ゆかりて
ゆかりの事 ゆかりて知也 ゆかりて
ゆかりの事 ゆかりて知也 ゆかりて
ゆかりの事 ゆかりて知也 ゆかりて
ゆかりの事 ゆかりて知也 ゆかりて
ゆかりの事 ゆかりて知也 ゆかりて
ゆかりの事 ゆかりて知也 ゆかりて

彼岸王

幸道人

紫根切也 道ゆく人を
ゆかりの
秋の七草と
ゆかりの
秋の七草と
ゆかりの
秋の七草と
ゆかりの
秋の七草と
ゆかりの
秋の七草と
ゆかりの
秋の七草と
ゆかりの
秋の七草と
ゆかりの
秋の七草と

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

小楓樹（さゝもみぢ）

とち山とちの実（み）
みな楓（もみぢ）ちりつくしてさゝもみぢ
也（なり）まつ楓乃（の）
なりまたゞひとり

楓（もみぢ）

ひさごいけ志（し）ま
むらいろ楓（もみぢ）

ひとつ楓（もみぢ）

楓（もみぢ）散（ち）初（そめ）へすこしありて
かさゞみありわらひ
とりふりみだれ紛（まが）ふ
うすく黄（き）の乃（の）
嵐山（あらしやま）
ちりぬ
みな楓（もみぢ）

そめ初（そめ）るかたもそれ
けさの時雨（しぐれ）のわたれ
ぬしかた

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

松うえ

いさりしよりみちへまつ業ゐ精業
乃魚りをそりぐくかつら乃
おくくおるゝそ夏んと猟くとり
山楓の枝うのうへ
余ハこゝろをまかしてまつ
分相撲醒松間色といひ一寒氣よ
地久ぬ松ま
風乃おとしてそ
ら夏そくそのも
まらのりそり
発朝臣

秋之川

秋ハ一ト
秋ハ一ト
秋ハ一ト

こやは

葉形多くは五つに分れ
そのひけめ深く同じく多く微
毛ありて色青く
葉の表裏ともに
のこぎりの歯のごとく
細かなるぎざぎざあり
葉柄長く紅紫を帯
茎赤紫色にして
節ごとに葉を互生す

朱楓門院

そもそもぬと山乃林のうちとのみら

蔭凉

葉形多くは五つに分れ
百小一葉ともに七葉あり
まれにはわかれざるもあり
かたくすこしく厚し
いりめらとあり
秋紅葉して
枝出
と蔭凉乃ぬし
るより一枝とり
つぶふして
わくえ乃色さてかうとも色
ととのふ葉ぬとを

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

ちきしま
千敷島

紫能赤花のみそらしらぐ八重
咲きかつら秋乃色と
矢乃介源乃
そひまつ
もみちも

為家

花のゑん

紫能初花
出紫ちりすきて春ハ
葉能されて夫能さくら根ハ
杜乃紫さ
それもきえ乃あくる事

宗家

うつろひ昔乃花乃
のこり乃秋乃

高

葉形ようさ色ふかくやうそうもまく
かうり科のおなじくつる生ゆえ錦蒲の
おなじくまきつくさま
葉中細で実短
いぼくとう
まろかうさく
まろその
ゆきんん

初りかう

初春お菜植まき通而ハ
ふくれふとうり科
門のはうり
てんだかう
又琉球貴
かうそのふうり
花ちうり科の
ちうりのなりいちく

紋盡（もんづくし）

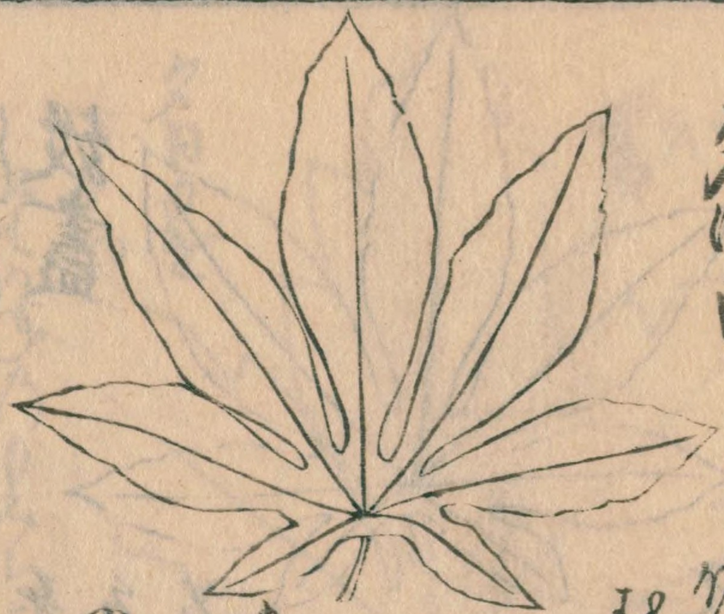
紫形（むらさき）うく春おもむきぬれば
夏色（なついろ）まさりて
黄色（きいろ）紅葉（もみぢ）まで
野（の）もそこ山（やま）も
秋乃（あきの）錦（にしき）
織（おり）なすふもとの
さくら紅葉（もみぢ）
とぶ

夕（ゆふ）
名（な）
書（かき）

夕日（ゆふひ）を
さしも
そむる
もみぢ
かな

紫形（むらさき）うく春（はる）おもむきぬれば
夏色（なついろ）まさりて
黄色（きいろ）紅葉（もみぢ）まで
のめぐみ
夕日（ゆふひ）ふかがあらく
ねハ
つゆ
二品（にしな）は覚（おぼ）
ふら
の
ろふ

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用



夕河雨（ゆふしぐれ）

お葉紅葉よく久うつろ
りんのりとあく三へほど
ひろさ丸を一しく一面ふして
うき色めつしく秋乃
いろさ風くく一面ふして
ケ成をまちり
みち葉ふ
のこと通しくく
秋乃

雁

雁令（うえん）

紅葉丸らのさくあひ
おぐもあり三乃
の夫さおぐうそ
もりと深さ
ろうそれ六うと
ろ夜中うふ
ちり秋よ紅

為家

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

葉形ちくわ葉うすもの
すべる葉ともとをえべて葉
枝もふさうまくかがり
めり枝紅葉さまくみく
紅色よくす入れて流ようう
葉くへあとてう波とめ
ちらし多摘そ折りり　亀山院
おふうのくく
みふりめれ

葉形ちくわ葉うすもの
すべる葉ともとをえべて葉
枝もふさうまくかがり
めり枝紅葉さまくみく
紅色よくす入れて流ようう
葉くへあとてう波とめ
ちらし多摘そ折りり　亀山院
おふうのくく
みふりめれ

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

千里（ちさと）

おなじくもみぢ

すぐさとの
紫とぞ
めでたき
きみとともに
久しく
さかえむ
おりのうらもよし

千里の中納言完菴
（かんあん）

弥彦（やひこ）

紫萩立田のもみぢ
秋乃色
ちとそめてくる
せゝらぎ
川とそふ
うちなみたゝん
てるまでも
古今

立田川もみぢ
ちるかも
くれなゐの
なみ
かとぞ
見む

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

あやめぐさ

綾蔭笠

菜花らのうくとそうきをりふしのみちかふ
そてお菜ふ枝をもふく包
うき菜枝をかくしつゝみ
かうめりし枝もかすうう
きうらんをふくさもも

藤行衛

えもろふお菜らりくくそひ人の
とげもとうふにし義とりく

ふよぶ

菜枝切かうれふく他て
お菜ふうれこそ
吳名とびみらふくたふ
そらのくの云おぶづり
のふてたのぶしふる多
もうふとかまり秋ま
初菜枝ふのくりり

七條院大納言

みら菜紙めし
かけこやもや
みくり

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

名(な)もり川

葉形(はがた)のそく葉乃(の)きれ久(ひさ)く葉の数(かず)おほげく出葉(でば)より
もりと久(ひさ)あをき葉(は)よりて
うすくれなゐ乃(の)うつくしき
にごり通(とほ)りの秋(あき)の紅葉(もみぢ)ふりつもる
水(みづ)の底(そこ)まで

みちやなくくもりなくさやけき
名もり川至(いた)るまで清(きよ)き
ことわりなり

秋風

もみぢ葉(ば)のうつろふ
風(かぜ)をうらめしく
おもふ心(こころ)も
あき

葉形(はがた)大(おほ)きに葉(は)のふちぎざ
らありて実形(まがた)なる
葉(は)よりもくしく
とぎれ紅葉(もみぢ)なく
海葉(うみば)紅葉(もみぢ)時(とき)より
色見(いろみ)へてうつくし

狩雪公継

風(かぜ)のふく
枝(えだ)のもみぢ
葉(は)

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

紅ゆ

紫形もく切ゆもく小ぶぎ
ありい波ふうう多ゑ
ひくふ文ふ
ゑ紫形ゑ
ゑしきふお関白乃
にくゑふちーなのゑ
旅ー乃ふれいくそひら弁

玄也門院

いくゑ
幾深

八ふかみ
形ちのさく紅葉
そしてふ
本ゑりふ
いくふのの
ふへし秋乃文を終ふ

為兼

いふふちで霧を時
文ふ紅まくと深ふ

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

うづき羽

紫紅色にして秋の楓よりかろうして
色あり羽のうらおもてともに
黄色をおびうすくけばありまつげ
羽よりながくうすくけばありの
ごとくなり

前参議親隆

小雨ぬ綿（こさめ）

紫紅色にして秋の楓よりかろうして
出葉より羽のうらおもてともに
黄色をおびうすくけばありまつげ
羽よりながくうすくけばありの
ごとくなり

梶井宮

七夕（たなばた）

葉取りてかく切込
ふりて七つ切すて
そえてたなばた
へもさして
八九葉に
色まじりひらひらと
よし

女郎花（おみなえし）

まず稍多く天乃
えらびまた波の
ものとす

葉形らへさく切込多く
葉数ふげく枝頭そろ
くかりあつめ
もし紅葉
文と深みせり

淫祐

ふもとの井もこそあの
山乃み雫に咲ぬれそ

182
20
138

唐毛氈錦（とうもうせんにしき）

葉形よく出葉うら
もみもうきあをそれて
唐毛のごとくしかも
のかうきうすくうつる
かうらのすぢ
そのそれぞれのあひだ
ひとすぢあり

大綱言春夏

秋はこがねいろ
夜さくらもみぢ
唐毛のごとくうつる
さもうき

廣益地錦抄

十二

182
20
158

巻之十二

ヤクサウ
藥草のうち
五十六種
花葉の圖
を付ケ

東京圖書館

和書門	類	函	架	號	冊
	十六二	二	五	六三九	二〇

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

廣益地錦抄卷之四目錄　藥草之十六種

牡丹　當歸　芎藭　蘼香　南星　瓜樓　瞿麥　付萆薢　白芷　射干　白蘞　草王　萎蕤　芍藥　人參　沙參　白朮　大黃　半夏　菊　萇蓮　木香　烏頭　附子　茴香　萎蕤　百合三種　ヨトキリ　益母草

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

香薷　薄荷　大薊
飛廉　馬蘭　細辛
穀精草　蕺菜　赤地利
豺膽　牛膝　麥門冬大小
稀簽　メ牛モこ　冬葵子
車前　牙麻　天名精
牽牛子

小薊　杜衡　蘭尾菜
昌蒲菜　蜀葵
紅花

凡例

藥草ハ磨和ト名ケ又ハ切ク二ホあるをもつて
いふ并ふ二三種あるもあり葉ふ表裏あり
尖ノ長あり又ハ丸ク地のうるほうてあるをもつて
一種ふしてこれ葉ノかたちをしらんよいづも
磨ノ葉とおくられ人揮撰せしを
も本草細因ふ其味と毛ノ
たゞ人て草あり葉形三粒ふまにけをノて
色財緑蘇頌ノ所レ說ノ人參ありこいひ

或ハ葉枸杞ヨ仙ク白花ハ茎葉保昇
ぐ云ふく云ふれハ洗煮通ふてゐるのりぐミ
草の性そらも夫へのび直ありり池へ芽ぎたり
陽向とこのむ湯とをくとおそるく
あり雪まとのぞむわるとも水深さ初へ洗
く植ゑばとりつゝ去中へもつゝ又深さを
おりひ草ハ浅く植通べし
まり菜くの性ま通ハ業力をそのくくる
某草ハ庭園小植へよく泥好よむ凡花實巫景ハへ

市宿根多ふおぐわとお
文学ありとゐ大草に学ばどんなさぐり
ふてわくる通うん
実ハ毒ありて葉ハ菜ハ醤ハわれ
能毒ハ糖粉乃又乾漆毒
ふく香をまる只稈植乃業あるまく古
今名付ゐ事成それとまう
ありて充実乃称賞ある通ふ
其中ハを充業乃称ふふくうん等もありぬ

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

たこ　人参　田野乃。地傳。露の虱　牛
蛇　蝮　水蕨乃蛭　魚虎　蛇床子　黍上乃石斛
石蔔　蔓の綠　烏瓜　猫草　嵐の扇羊
かいこ　蛾　なでくりへる　吳茱萸
苑　一宗づくりてる　ふくべ
乃蕾　あつ　又　苑蕨　ぐみ　ぐみ
蕨　又　苑堰　よ　柱　てといふ
本草　よへいづ　さ　人参　と　完初
の氣　と　補黄　る　拍　に　勝　そ　ら　ざ　れ　ま　り　や　よ
ぐ　ら　ぐ　ほ　ど　く
ぬ　ら　ぬ　ら　ぬ　ら　

牡丹 唐の牡丹を日本乃(ノ)牡丹(ボタン)よりくらべ見るに花相(ハナカタチ)ハ同じくして数百乃(ノ)花弁(ハナビラ)ありて二階三階(カイ)あり今銀(ギン)のごとく白きもあり又紅(クレナイ)のごとくあかきもあり今(イマ)銀(ギン)ぢで金蓋(キンガイ)ありしべ(ヲシベ)ハ黄(キ)なり葉(ハ)ハ数種(スジ)の若葉(ワカバ)ありて各別(カクベツ)乃(ノ)ものなり葉形(ハノカタチ)も各別乃(ノ)ものなり葉色(ハノイロ)ハ深緑(フカミドリ)にして光(ツヤ)ありて厚(アツ)し小葉(コバ)ハ川骨(カハホネ)の花乃(ノ)ごとく大(オホ)きく小葉(コバ)ハ牡丹(ボタン)の葉乃(ノ)ごとくにして

菊 菊(キク)ハ品類(シナ)多(オホ)く花(ハナ)ハ黄(キ)白(シロ)紅(クレナイ)紫(ムラサキ)等(トウ)あり又(マタ)一枝(ヒトエダ)に数花(スウクワ)咲(サ)くあり又(マタ)一枝(ヒトエダ)に一花(ヒトハナ)咲(サ)くあり又(マタ)花(ハナ)ハ小(チヒ)さくして数多(アマタ)咲(サ)くあり又(マタ)花(ハナ)ハ大(オホ)きくして数(カズ)多(オホ)く咲(サ)くあり又(マタ)花(ハナ)ハ大(オホ)きくして数(カズ)少(スク)なく咲(サ)くあり又(マタ)花(ハナ)ハ小(チヒ)さくして数(カズ)少(スク)なく咲(サ)くあり又(マタ)花(ハナ)ハ大(オホ)きくして一枝(ヒトエダ)に一花(ヒトハナ)咲(サ)くあり又(マタ)花(ハナ)ハ小(チヒ)さくして一枝(ヒトエダ)に一花(ヒトハナ)咲(サ)くあり又(マタ)花(ハナ)ハ大(オホ)きくして一枝(ヒトエダ)に数花(スウクワ)咲(サ)くあり又(マタ)花(ハナ)ハ小(チヒ)さくして一枝(ヒトエダ)に数花(スウクワ)

香氣を益加增のせ
ありうばの朝鮮ゟ仙
うへ花も白くせり
ひとく杜さく

當歸 葉乃さゝおもゝ
七せりのごとく高う杜
にて花さく高うり杜
未ましく脇にさく枝多
おく枝ごとに白く花を
ひら杜實根紫ゟ赤香
氣高しくまり

沙參 葉さゝおもゝあ
ひらぐらふくさき
おほく出ほそて粉地目

桔梗 莖杜ふか田野に
多くあるもの
ひとく脇に地實をとりて
用ゆをかほうそてこと
ゟ云花擅よ稍るへ八ツ
さゝ色てまりなき中ゟ
かてこと一枝ゟ多く分
ゟり田野ふかき者花大ク

ひらぐらふくさきしくりふ
う脇ふかてくきしくりふ
花い杜さく枝多りいしの
おくふかくおくまてうり杜
葉乃花形ちいさくうす
多ふひらく杜八人參に似り

黃連 葉こゝろふかて花も
ろく初春抽花
にさゝほらくゟく
ふ川中乃ほ高山谷
せのたゝく花大ふんせん
ようさうをもうをも色
とあるを鮮やそしてこゝろ
ほ乃ごとく名ふ葉ゟ
ゟ茎杜ふか田野ふ
う脇ふかてくきしくりふ
花い杜さく枝多りいしの
おくふかくおくまてうり杜
葉乃花形ちいさくうす
多ふひらく杜八人參に似り

黃連 葉こゝろふかて花も
ろく初春抽花
にさゝほらくゟく
ふ川中乃ほ高山谷
せのたゝく花大ふんせん
ようさうをもうをも色
とあるを鮮やそしてこゝろ

実乃ころもかどあり

白芷（びゃくし）　葉に切込ありて大きく
ふろく色くへて二本
ばかりて花さく花乃形
ちゝくに似て尖まだ
ふのかたちなり
夜よりひるまで
小のごとく漏よおりるやう
日なへ（ママ）出文（ママ）水滴（ママ）実
のごとし根をせんじ
飲ます

白朮（びゃくじゅつ）　葉ごく出乃葉かい
ろく色ありて支分
ごとく乃かゝりありて
林ひるく花の支ゆく
さゝら色花乃ごとくにて
のごとく枝拘あり

黄耆（おうぎ）　葉かい小萩乃葉
ごとく葉五八二三支
まくの違ふ花乃こと
くり洗ふこむく萩乃
花のごとくなうとあをき
花さく実いさゝげのごとく

木香（もっこう）　葉かこんのごと
くふさくあり
花根ハおろし海の芥
どくふさくふつふんひと
うこんも似ハ尖をのべ
うこんそ久くるさく
かごめあり

藿香（かっこう）　くハこそ葉に
似くまるく支
附て葉のごとし
枝ゆく夜の末ごと
ゆ小花さくあつて
てごとくべき乳香
みたり

射干（やかん）　葉花のひわさき
なりてすゝのさ
くとゆ葉なりかハ
射干葉烏羽のごとく
枝ゆ花ひるく赤點人
枝ゆく草花と寺とゆ
形漢名ゆ葉乃形
なりと云ゆ葉花ゆ
日なふ乃ごとを年ゆ
とうこん支葵うこん
也乃三種出るゆ
田野よりうすあるの

獅子牡丹

芍薬

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』 請求記号 182-158　ガラス使用

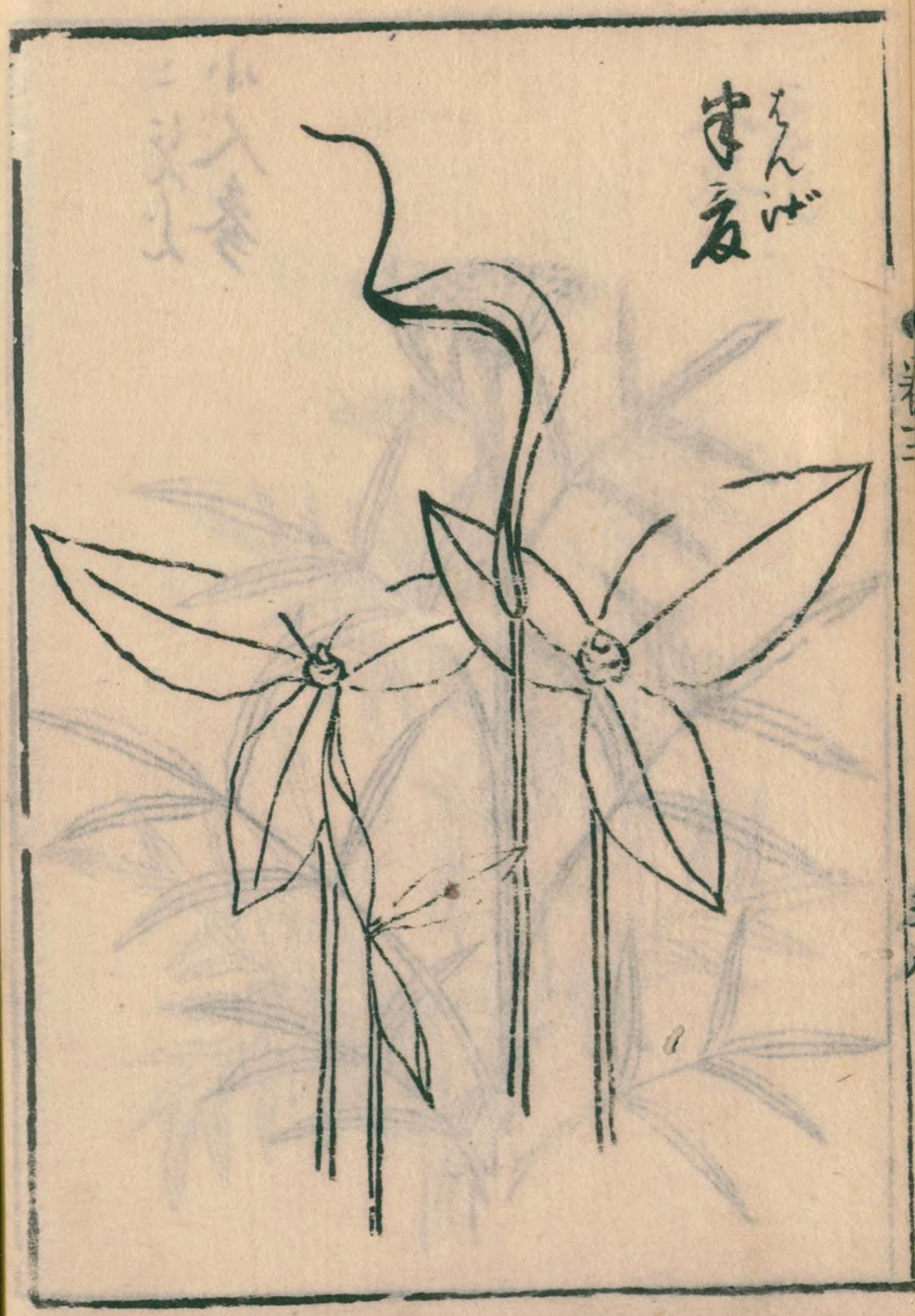
人参（にんじん）

小人参（こにんじん）

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

そんしょう



そんば

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

茴香

白朮

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

きのこう
李王

たうき
當歸

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

小薊 さうげい

大薊 たいげい

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

ひれん
飛廉

やくさう
薬草

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

琉球百合

百合

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

蜀葵（とうきび）

冬葵子（とうきし）

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

大黄（たいおう） 唐和乃二種あり和名ゑびすだいおう
うこれくまつ心中より
空ろくこと四尺余のわの
花うとわろく蕎麦
花うらみて尺ろ
そしべ唐ハ茶九く
大ろく野こありて花
ろくしてこれを花
を和入ろくおあ
あり根ハ和より各別
大ろく黄うこん久こ

烏頭（うず） 茶ハあさの茶花
つうこそ夜ろ
に切也あり花多あり
八ろくろくらん久ふく
花形ひしきさう時ハ
俗人の多寄花うら
ゆこて茶花ろと
とりふしろ花ろこ
亘鳥帽子とんさう花こそ
着乃角ふ似て異同ハ
七ありてこゆられぶ
し茶ん云花うりに
ちぶんて咲さう夜乃

南星（なんせう） 茶こへ茶ふ一空茶
茶とひくくことも
に花ろるりまた六す
ろり春天まで一空一花
そりろふハ実ろく
かうとまろく四足ふ茶
花乃ろ尾ハ蛇（へび）の尾乃お
ろくゆ足きねもり物る
実ハの又一根仁ろ生
ろ云一花二空ま
孔ハおちびろり四か大こ
まこ花ろべハ九ク句く実
ろでうろ九ろちで

花孔ろ仙ろて茶く
多ろも以花壇ふ推ふ
ろこへとい根と烏孔
としハ附ふ初稚と烏
ひと云烏のろらよろき
る此なり烏ひろ付テ
ろると附ろくゆろ乃
母り付クぐこく一把也
とゆり

延寿（えんじゅ） 茶ハもろに仙
てハ茶ふり花ろ
天のんせう九花孔ハく
らのさくうすろこ茶の

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

朽根朱乃也にわらくさ
かげあり

茴香（うゐきやう）　葉こまやかに切て胡乃ごとくまた
冬ごろ葉こまやかにうすべにの花さくうす
黄色乾菜よりは香気
あり乾塩よりうへてよう
時はげ云ふ茴と生ス
こがりとおもへ六月黄
花とひらくくちびへなり
実ハ貳ツ云茴香胡荽に
似たりや草と註ふハ

王瓜（ラくわ）　俗ゐうすり瓜ともいふ
ろふ実とひとぶ丸ひろ
にのびくく田おもて多ッセス
まに咽しよ葉花ク黒し
あり名石花紙ひらく
日暮乃何ともく実ハ
ひめうりみたくく多ク
分て秋かを付しろ赤ハ
黄実ヲ筒あり冬ハ色
凋ぬるくあく経ル
文とひとおもうかからう
かも尽ル歟ともいふ

人ク誤なりといへともも
うす胡荽ごとくに似
ありう葉れい似てよい
ちやうい抱てまるし
ちんハ黒ともあり

草王（そのう）　葉ハ切こまりてうす
くやわらかにほそ
なふありう葉とつくれ
ど実ハ小ちん一粒のまめ
ほど実ひらくく葉ともに
ありうれ黄也まるも
血ともと寺ともに葉ともに
ふありて紙まめ通ハ茶
色にして淡

於止木利（おとぎり）　葉こまやかに柳
乃葉のごとくに花
黄色小ちん一粒のまめ
ほど実ひらくく葉ともに
ありうれ黄也まるも
血ともと寺ともに葉ともに
ふありて紙まめ通ハ茶
色にして淡

むそ及ハうとまるずして多くまる也実ともふるれど必臭ひてくさゝるとなり

黄雞菜（こうせい）　茎ハ竹乃茎のごとくなく一なつて出ゝかたくされて茎乃多くまるもの苑ハしさゞりて味苑ともに一色苑よく実苑くさゞりて也ろし　蕪菁（かぶ）乃茎葉偏を不對者偏粘（むて）菜

苦苣（ちさ）　茎苑垂乃茎のごとく田ゐる多くて苑乳ハうせん實乃ごとく也苑ともに一色にて淡臭（ぜく）に用ゐ

苦菜（にがな）　茎苑垂乃茎のごとく田ゐる多くて苑乳ハうせん實乃ごとく也苑ともに一色にて淡臭に用ゐ

苦苣と苦菜とハ形ハ同じやうなれど苦苣ハ葉のふちぎざぎざ苦菜ハ葉のふちぎざぎざなし

萎蕤 玉竹 ゆうしよくの名ありて
ありやなしや 蛭乃茅みに似
茎立をあるものとくこそ
産水桂と家説あり
ふかひそくとして
茅のうら葉とうらく色
小細花うらかにして茅
よりくるおにくさり
百合 茅程かい花白キを
用といふ大和河内
にて吉野ゆりといふ芳
也山ふきうらかの花の
色白紫乃ありて橘色
のうらくふくらかにて
てはさくゆりとうらく歌

薤 香薷 茅ときうらに
ふくらかをうず野
山おおくあり
薄荷 田野に多くはへ
香気あり

蛭乃茅ときうらに
ありて茎立ち
一枝花ふ黄色ありて
うらく格にて白花ふきつう
ふうりうりとうらかにて
うらうらうりさる和名ふ利
仁用又一枝毋巻とふ
うら花赤くやうとひとう
て花中に蕊ありて穴有
茎花ましうる時ふる
花さくゆへむかがめあり
根ハ料理よきふの味は
ふの乃ゆりの味ありて

香気ありてとうらに
とのの訛脳乃うらわる迄
ふうり茎ハ乃ありもの
方へ付り訛脳乃ありて
わつく大きうりまうて
うらうりうりさる香気臭とこと
つくく訛脳乃うらし眼
明うるといふしよ茎ふ
乃ありてうれふ血を
とるといふみとくふくふ
小細花うるふうり

菊 大小乃二種あり
山中に多くはへおのづ

本養丹巻ハ葉の形
黒く実あり丸て極
しいさゝ花とおなじ
合数種あり皆ハ葉柱の谷

菊藁（ひもん）　葉ハわざみよ似
て各別するわ葉
こゝ出ハ半（つゝ）房の葉よ似
ゝり葉のうら白くもを
てまこゝ派こゝゝふさゞの
て葉よゝりあり〻弁（へん）が
花（はな）こゝ天ホのがり葉
おちごびよ付てぎの形よ
どく似ゐ花おさゝま

乃事ゝり葉ゝ葉ゝ
湯びゝそひゝわ木料
理して味ゝ一派一葉人
ゝくあるふさゞて剌と
生ス花へひゝゝ花ゝ葉ニ
大菊小菊一株として
大菊ハ肥て大ゝ成ル乃と
る三四尺葉よ敵あの山
若ホ生スしゝり山坂ゝ
ほまびゝゝのみ会別の
ゐゝり天ホ花形あゝく
私ゝくゝるまゝ葉
ハ同ありゝく大さゝり

仙て黒ホ葉表ゝゝて雅
乃まゝこゝ花といゝな葉ま
ゝこに多くゝゝりゝゝ葉
に多くゝ

馬薗（ばん）　葉ハそわめよゝく
ゝゝく裂ゝけそゝる
ゐ花ハむゝゝさゝ二月ゝく
葉花ホハだまんとゝぶ
形よひゝゝゝゝよゝぶゝ似
乃花ハ初又ひゝゝくい花ゝ
葉柱のてつまん花とゝ云
形ゝ刷よ形（ぎゃう）とゝ云ゝ
乃毛のゝゝくみそほゝ

小菊ゝ花形ゝゝく表
葉ゝゝり多よてよひゝゝく
表ひゝゝゝ花ゝ極ゝ
ゝ葉ゝ乃十余ホあれ
ゝも黄ホ表ハ乃まゝ山
後黄花ホあゝゝ出葉
べ形ゝく珠芽ありべし

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

車前（おおばこ）

くるまばそう

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

南瓜

玉瓜

ヲヽクヽ

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

いぶき草

白南星

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

麦門冬（ばくもんどう）

黄連（わうれん）

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　　ガラス使用

杜衡（とうこう）

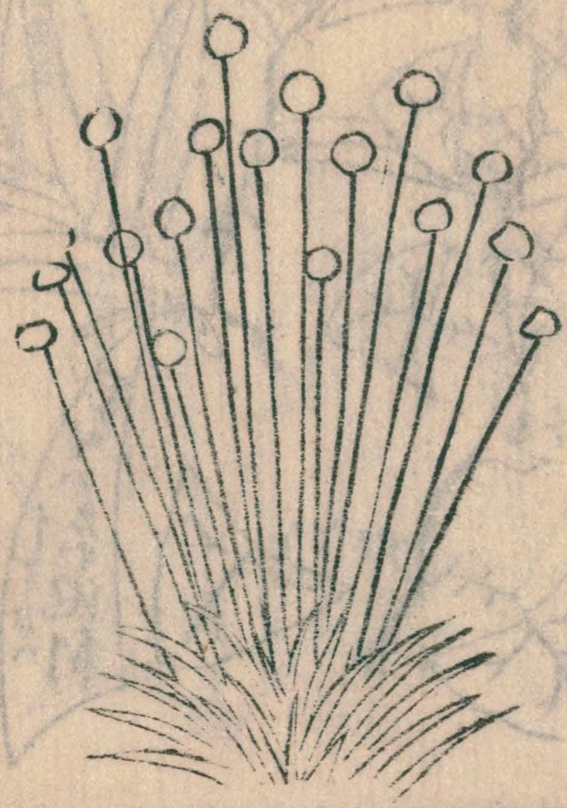
細辛（さいしん）

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

穀精草（こくせいそう）



鴨跖草（あとそう）

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

細辛　夢乳丸くちにさくしていもわすれひみのごとくふりいるをとりあつめてほしかわかくしてこなにしてかくのごとくすること三年にしてやむ

穀精草　田の中に生ずる小草なり七月小花をさく葉へかくしてこれをとるにかわかくしてこなにしてかくのごとくすること三年にしてやむ

杜衡　さいこんと同じ葉長くして大きく華の中かうとしろく絲のごとくなるおしべありかおりあり穢頽が穀田の中に生ずる花も白小決星のごとくなりかおりあり

藏葉　田地まきつけ時分のうれ葉をあのうえくさえくと生ずる花枝にて白き花みつにわかれ中おおきく色うすくかたち人参花のごとくおおくさきあつまりさく葉へかくしてこれをとるにかわかくしてこなにしてかくのごとくすること三年にしてやむ

かさらにつくあり二三月ハツリくさと出てみらんのごとくあり秋に九月花をひらくおおきくもおおきくもなし花の下ふくろあり実をむすぶ根茎ともにくすりとす

荒田の草ともいう葉ハなまりて生ずるくし稲と植て一段さきらりて三月ごろさらんをとりいうくさらん

うのはいろ
生面草 田地溝などに多くあり葉乃多くあり茎飛かもち中空にて節毎に眼(モク)のごとくある故名とす花黄色にて重弁なり茎葉ともに苦味あり

蘭草 旧説(キウセツ)とくべて花さく葉を茅(チ)葉乃ごとく多くあり

龍膽 深山に多く生ず七月頃青紫色乃うら人形(ニンギヤウ)と称する山枝さきあとまた白きあり年を経(ヘ)たるは花葉ともに大にして葉の巾(ハバ)広さ一寸余あり花冠(クワクワン)筒(ツヽ)と脚(アシ)とに分(ワカ)れ脚の間(アヒダ)に細(コマカ)き歯(ハ)あり

麥門冬 葉乃ごとくにて花さくあり実(ミ)は豆(マメ)のごとくにて小(チヒ)さく二粒(リフ)ありて熟(ジユク)すれば紫黒色(シコクシヨク)となる

半夏 久しく畑(ハタケ)に植(ウヘ)おけば畑よく植(ウヘ)ずして自然(シゼン)とはえ出(イヅ)る葉右(ミギ)のごとくにて三つ宛(ヅヽ)一茎(イツケイ)に生(シヤウ)ず

藤 春(ハル)芽(メ)を出(イダ)し蔓(ツル)となりて他木(タボク)に纏(マト)ひ登(ノボ)る葉乃ごとくにて小(チヒ)さく花(ハナ)乃ごとくにて小(チヒ)さく実(ミ)乃下に植(ウヘ)おくれば年(トシ)を経(ヘ)て大(オホ)きなる株(カブ)となる

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

大きるい葉ふそんとう草
に似くひろく毛ニ花ぐ
大つぶたり

繖蔡（さんさい）

葉丸くこまかす刀
ひろさみくうす
ろく乾わり秋黄色花
さく梧桐子ほど実ニ
もぶ実も葉根の繖蔡
葉もおなじみとこ
ろこの葉とりて酒
して七度ひて細末と
して中風乃者に毎服
ニもつてよし又毒出乃

馬鞭草（ばべんさう）

葉ちさくふ
仙く枝おおく
お夜のひふぢのやう
くふ極乃ごくこまく
実ふ節ニ馬鞭草（ばべんさう）
よく実ふ節ニ馬鞭草（ばべんさう）
よびくく乾ふ名付ニ
よび

冬葵（ふゆあふひ）

葉小さくひよ面ぎ
るぐり仙て花ち
小細乃ごとふ弘葉
ちいふ秋ごろ花ち
とるくニにいり実
ふしとふことと冬葵

さうそうるふのごとくして
ぐしふ乃茎ふ雌雄ふ
葉秋ふく仙く葉うすく
かめらふ仙てまるく花
実小細ちり実ふおく
花ふぐて人夜ふごとり月
ニとめおりことふふニ
葉とりて毒虫さしる
ニめおりことふふ
葉ふるとらニみふさ
ごとふふごとくニして仙けてよし
ぐ乃ごとりてふくぐとる
いくり繖蔡（さんさい）仙めおりニ

蜀葵（しよくき）

今花酒ふうゆる
大ふひ乃ごとくふ
花ニいろくふふ花ふ葉
ふ仙ふ乃ごとくニ実ふ
仙ふ乃ごとくニ実ふ
ふ仙ふ乃ごとくニ実ふ
ふ仙ふ乃ごとくニ実ふ
ふ

といふ者あり雌雄ともに
ひくさ三寸ばかり大なるあつく
互葉にして白く毛ありて
茎さらさらとくまばらに野
かのみといふ者ありこれ茎う
もくやさしくして至りて
くに茎さらさらとのやうに
かなりことといふ
澤蘭（さくらん）　葉ひろく長く
お対（アヒムカヒ）して付く互葉
にうすく白く毛ありこれ
うらひらに至りてふさ

至りてまた六月花さく
ばかりくだきくなりて
紅紫色の白せんのうひとへ
みに至葉乃至枝よ雑
ありそれら共花をべて今粉
極心乃者なびきのごとく
めぐり今多くありとい
へども極てかぐはしき花を
のぞりくだくだの限く
花ひらき未まで至りて
の限る後よりいと花まで
にて至てのかり極る時節
極（キハマ）毎の終（ヲハリ）となりとぞ

弁麻（はうま）　葉にくれありてもち
くうすらろく色そ
へて花ひらひらさきき
放ちたり夜のほひくさき
余花（のこりのはな）まれある時節は
さうにてかくめでず一枝葉
も花をかちひてゐろ
白花さらさら六月花さく
かぐはしありうすく茎紫ばみ
山野に多く生ず白花咲
ひ葉粉乃ごとくなべし
花ひらかいたりく実を
人家ふとり時疫（アタリ）毒（ドク）薬
とす葉粉乃鶴虱（ツルノシラミ）そり

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

182
20
186

紀菊 ちいさき菊と桂川の景まで
牽牛子 あさがほの事
廣益地錦抄某草四之巻終

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

182
10
158

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用